



広島なぎさの生徒の皆さんへ

休校に入って今日でちょうど一週間になりました。体調はどうですか。勉強は進んでいますか。家でじっとしているのでストレスが溜まっていませんか。皆さんがいない学校は火が消えたようで、グラウンドもガランとして見えます。今は早く皆さんに会えることを祈るばかりです。

「できない」ことが沢山あって、苦しいことと思います。でも、そんなときこそ、「できる」ことを考えましょう。

エレナ・ポーターという人が書いた「少女パレアナ」という物語があります。1960年にディズニーが映画化し、日本では1986年に「愛少女ポリアンナ物語」というアニメが放映されました。どちらかという子ども向けの平易な物語ですが、私は中学生の時に読み、今でもたまに手に取ることがあります。あらすじを簡単に紹介しましょう。

両親を亡くしたパレアナは、母方の叔母に引き取られます。叔母は町一番の有力者ですが、若い頃恋人とけんか別れして以来、誰にも心を開かない頑なな人間になっていました。でも、パレアナはその叔母だけではなく、町中の人々と友達になり、不平不満を抱えていた多くの人々の心を溶かしていきます。その方法はただ一つ。牧師だった父から教わった「何でも喜ぶ」というゲームをすることでした。例えば、メイドのナンシーが、「月曜日は仕事が始まるから大嫌いだ、月曜日が来なければいい」と文句を言っていると、パレアナは「月曜日は一番嬉しい日よ、だって次の月曜日まで一番遠い日なんだから」と言うのです。

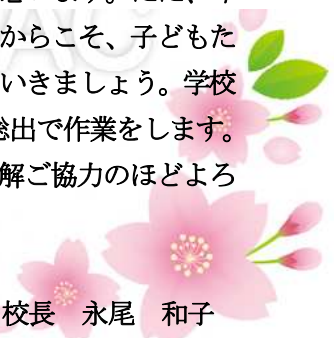
人生はいつも順風満帆とはいきません。晴れの日もあれば雨の日もあります。私達は天気を変えることはできないけれど、それをどう受け止めるか、自分の気持ちを変えることはできます。時間を持て余すという人がいれば、どうか良い本を読んでください。こんなときこそ長編小説をじっくり読めます。10日もあれば、薄い英語の本だって読めるんじゃないでしょうか。

ついだらだらと過ごしてしまうという人がいれば、毎晩次の日のスケジュールを立ててみてはどうでしょう。時間を区切れるのは人間だけができることです。その能力を最大限に活かせるチャンスです。マイナスをプラスにできるかどうかは、自分の考え次第だとパレアナの物語は教えてくれます。

何かが起きても、それをどう受け止めプラスに置き換えていけるかを考える心のゆとりを忘れないでください。私はいつも皆さんを信じています。揺らぐ前に進みましょう。

保護者の皆様へ

お子様のこと、お仕事のこと、色々不安なことや大変なことがおありだと思います。ただ、今一番願うことは、皆様が健康でいて下さることです。そして、こんなときだからこそ、子どもたちにどう危機を乗り越えるかを大人として示し、子どもたちと一緒に支えていきましょう。学校では本日9日、明日登校予定だった学年への春課題送付のために先生方が総出で作業をします。学校としても今何ができるか、一生懸命考え取り組んで行きますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。



広島なぎさ中学校・高等学校 校長 永尾 和子